

【2025 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎演習 I		必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 宏史 他	D305	sakamoto	木曜日 10:00~12:40		
授業の目的・概要	本演習の目的は、大学で学ぶために必要な姿勢と技術を身につけることである。具体的には図書館の利用方法、グループワークの基本、社会人としての自立した生活・学習方法に役立つ知識を学ぶ。また、書籍や文献の精読法、レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を学ぶことで、大学の勉学全般に欠かせない学習技法の習得を目指す。本演習は、学科を横断した小人数構成の学生グループをクラスとし、各クラス担任による指導のもとで行う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	本演習は健康科学部各学科・各専攻コース混成のグループ単位での演習授業であることから、学生同士には学科・専攻を超えて積極的にコミュニケーションを図ってほしい。また、演習を進めていくなかで疑問・不安を感じたときにはためらわず教員に相談してほしい。 *授業計画中の S1~S3 については備考欄を参照すること。				
教科書	大学生 学びのハンドブック (6 訂版) / 編著：世界思想社編集部 / 世界思想社				
参考書	必要に応じ講義中に紹介する。				
外部教材	「Renkon!」・「ペーパータワー」 京都産業大学 F 工房				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	大学での生活・学びがどのようなものか理解し、説明・実践することができる。			HSU(2)、(5)、(6)	
②	レポートの作成方法を理解し、内容・構成の整ったレポートを書くことができる。			HSU(2)、(5)	
③	プレゼンテーションに関する基本的な知識・技術を身に付け実践することができる。			HSU(2)、(5)、(6)	
④	他者とのコミュニケーションを行う上での基本を理解し、実践することができる。			HSU(1)、(4)、(5)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション：演習の進め方、評価方法の説明。大学での生活・学習方法を理解する。自己をプレゼンする。→S1	講義・演習	事前に自己紹介資料を作成する。教科書で内容を確認する。	0.5	
2	(1) 図書館の利用方法、資料の検索方法、レポートとは何かについて学ぶ。→S1	演習・グループワーク (GW)	(1) 教科書 50-69 ページを読む。各自で実際に図書館を利用する。	1	
3	(2) メンタルヘルスに関する講義を受け、効果的なノートを作成する。→S1		(2) 教科書 12-19 ページを読む。他の講義で実践する。	1	
4	(3) グループワークの基本を学ぶ。→S1 ※順不同で実施		(3) 資料を読む。	1	
5	資料の読み方・まとめ方①：論文等の構成を理解する。資料から必要な情報を読み取り、要約する方法について学ぶ。→S2	講義・演習	教科書 20-33 ページを読む。課題を完成させ提出する。	1	
6	資料の読み方・まとめ方②：課題の解説と資料の読み方・要約の方法のまとめを行う。→S2	講義・演習	課題を完成させ提出する。	1	
7	レポートの作成①：レポートの主題を決め、必要な情報を集める。→S2	講義・演習	教科書 34-49 ページを読む。課題を完成させ提出する。	1	
8	レポートの作成②：集めた情報を整理し、レポートの構成を考える。→S2	講義・演習	課題を完成させ提出する。	1	
9	レポートの作成③：パラグラフ・ライティングについて学び、自らのレポートで実践する。→S2	講義・演習	教科書 96-103 ページを読む。課題を完成させ提出する。	1	
10	レポートの作成④：チェックシートに基づいて全体を点検し、レポートを完成させる。→S2	講義・演習	課題を完成させ提出する。	1.5	
11	プレゼンテーションの基礎①：グループに分かれ主題を決め、必要な情報を集める。→S2	講義・GW	教科書 70-85 ページを読む。課題を完成させ提出する。	1	
12	プレゼンテーションの基礎②：パワーポイントの使用法、効果的なスライド作成技術について学ぶ。→S2	講義・GW	教科書 108-111 ページを読む。課題を完成させ提出する。	1	
13	プレゼンテーションの基礎③：発表の準備・予行演習を行う。→S2、 S3	演習・GW	発表準備を行う。	1	
14	プレゼンテーションの基礎④：発表・質疑応答を実践する。→S2、 S3	演習・GW	発表準備を行う。発表の振り返りを行う。	1.5	

【2025 年度/総合基礎科目領域/共通基礎科目群】

15	講義を振り返り、自己評価を行う。今後の大学生活、学びについて計画を立てる。自己評価と今後について達成度評価レポートを書く。→S1、 S2	講義・演習	達成度評価レポートを完成させて提出する。	0.5
試	期末試験は行わない。			

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	40	30	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	15	15	0	0	30
	思考・推論・創造する力	0	15	5	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	10	0	5	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	5	10

評価のポイント			フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点		
試験	①	✓	執筆ルールに従ってレポートを作成できているか、適切な文章表現ができているか、テーマに沿った情報を収集できているか等を、ルーブリックを使用して評価する。(全体の 40%)	提出したレポートにコメントを付けて返却する。全体に対する指摘は、講義中の解説時間もしくは 9 回目以降にコメントする。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	プレゼンテーションの構成、内容、表現技術、発表へのコメント、質疑応答等に対して、ルーブリックを使用して評価する。(全体の 30%)	14 回目以降にプレゼンテーションの評価結果の発表とともにフィードバックを行う。
	②			
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	演習への取り組み(練習や質疑応答)、課題の提出状況、提出された課題を総合的に判断する。「達成度評価レポート」から、意欲や成長を評価する。(全体の 30%)	提出物に対しては必要に応じてコメントを付けて返却する。全体に対する指摘は、講義中の解説時間、もしくは 15 回目にコメントする。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	三科 貴博、関根 聡美、石井 智也、小川 麻里子、渡辺 俊太郎、桑原 修、升 佑二郎
実践的授業の内容	プレゼンテーションの準備、実践など、グループワークを中心としたアクティブラーニングを行う。
そ の 他	<p>大学での「学び」はこれまでの「学び」とは異なり、非常に多くの特別な能力(スキル)が必要とされる。健康科学大学では、「基礎演習 I・II (健康科学部)」、「スタートアッププログラム I・II (看護学部)」という大学初年次の演習系授業を中心として、これらのスキルの習得を目指している。本講義で習得を目指すスキルは、以下の 3 つである。</p> <p>(1) スチューデント・スキルズ (Student Skills) : 大学での生活の仕方、図書館など施設の利用方法、メンタルヘルスの維持、グループワークでの基本、キャリアデザインなど →S1</p> <p>(2) スタディ・スキルズ (Study Skills) : 書籍や文献の読み方、ノートの取り方、文章の書き方、レポートの作成方法、口頭発表の基本、学習成果の評価など →S2</p> <p>(3) アカデミック・スキルズ (Academic Skills) : 問題の設定およびその解決に必要な情報の収集・分析方法、論理的かつ効果的な発表方法など →S3</p> <p>これらのスキルは重なり合う部分もあり、他の講義でも部分的にその習得を目指すことがある。本学の学生にはこれらのスキルを早く習得し、自らの「学び」を深めていくことを期待する。</p> <p>本科目は対面授業として実施するため、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は授業の参加を認めない。また、今後の新型コロナウイルス感染症等の社会情勢によってシラバスの変更が行われることがある。</p> <p>※必修の演習科目なので欠席や遅刻をしないように努めること。演習の欠席は3回までしか認められない。遅刻も1回で欠席 0.5 回の扱いになるので注意すること。</p>